

カリキュラムマップ

人文科学研究科社会・文化論専攻 修士課程 R5年度以降入学生適用 (学位：修士(文学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：社会と文化に関わる基礎的な研究の理論と方法論を身につけ、自らの研究に適切な形で応用できる。

【技能】

DP2：博物館・美術館学芸員、中学・高校社会科教員、地方公共団体・NPO・NGO職員等の仕事に深い理解を有し、それらの活動に従事できる。

【態度・志向性】

DP3：研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。

DP4：社会と文化の多様性について十分な関心と知識をもち、それを反映させた高度な学術的考察を行う態度と意識を持つ。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

種目	分野	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性	
						DP1	DP2	DP3	DP4
必修科目		社会・文化基礎論Ⅰ	2	1	後期	○			○
		社会・文化基礎論Ⅱ	2	1	後期	○			○
		社会・文化基礎論Ⅲ	2	1	前期	○			○
		社会・文化基礎論Ⅳ	2	1	後期	○		○	○
選択必修科目	人間社会	社会システム論演習Ⅰ	8	1	2年通年	◎		○	◎
		社会システム論演習Ⅱ	8	1	2年通年	◎		○	◎
		社会システム論特講Ⅰ	4	1	通年	◎			◎
		社会システム論特講Ⅱ	4	1	通年	◎			◎
	人間文化	文化構造論演習Ⅰ	8	1	2年通年	◎			◎
		文化構造論演習Ⅱ	8	1	2年通年	◎			◎
		文化構造論演習Ⅲ	8	1	2年通年	◎		○	◎
		文化構造論特講Ⅰ	4	1	通年	◎			◎
		文化構造論特講Ⅱ	4	1	通年	◎			◎
		文化構造論特講Ⅲ	4	1	通年	◎			◎
		思想文化論演習Ⅰ	8	1	2年通年	◎			◎
		思想文化論演習Ⅱ	8	1	2年通年	◎			◎
		思想文化論演習Ⅲ	8	1	2年通年	◎			◎
		思想文化論特講Ⅰ	4	1	通年	◎			◎
		思想文化論特講Ⅱ	4	1	通年	◎			◎
		思想文化論特講Ⅲ	4	1	通年	◎			◎
		表象文化論演習Ⅰ	8	1	2年通年	◎	○		◎
		表象文化論演習Ⅱ	8	1	2年通年	◎	○		◎
		表象文化論演習Ⅲ	8	1	2年通年	◎	○		◎
		表象文化論特講Ⅰ	4	1	通年	◎	○		○
表象文化論特講Ⅱ	4	1	通年	◎	○		○		
表象文化論特講Ⅲ	4	1	通年	◎	○		○		

選択科目	社会システム論文献講読Ⅰ	2	1	前期	◎			○
	社会システム論文献講読Ⅱ	2	1	後期	◎			○
	文化構造論文献講読Ⅰ	2	1	前期	◎			◎
	文化構造論文献講読Ⅱ	2	1	前期	◎			◎
	思想文化論文献講読Ⅰ	2	1	前期	◎			◎
	思想文化論文献講読Ⅱ	2	1	後期	◎			◎
	表象文化論文献講読Ⅰ	2	1	後期	◎	○		○
	表象文化論文献講読Ⅱ	2	1	前期	◎			○
	表象文化論文献講読Ⅲ	2	1	後期	◎			○
	現代社会論	2	1	後期	○			○
	比較社会文化論	2	1	前期	○			○
	文化心理学	2	1	前期	○			○
	人間性心理学	2	1	後期	○			○
	応用倫理学	2	1	前期	○			○
	言語文化論	2	1	前期	○			○
	文化価値論	2	1	後期	○			○

※修士課程の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする）。

DPに示す資質・能力を有していると認められるものに学位が授与される。

- ・必要取得単位：32単位以上
- 必修科目：8単位
- 専修科目の演習：8単位
- 専修科目の特講：4単位
- 選択科目：12単位以上

※「人間社会」及び「人間文化」の2分野のうち、いずれかの分野に属する一つの演習及び特講を選定し、これをその学生の専修科目とする。

※専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般について指導を受け、学位論文を提出する。

特講科目・・・専修科目にかんする専門的で高度な知識および理論を習得し、研究活動に活かす能力を身につける。

演習科目・・・研究指導を受けて修士論文の作成を行う。専修科目にかんする研究方法を用いて研究を遂行する能力を身につける。

1年次・・・各専修の研究にかんする現状把握と研究に必要な基礎力の養成

- ・演習・特講科目を通して研究遂行に必要な知識・理解および技能を身につける。
- ・指導教員の指導により研究計画書を作成し、修士論文検討会（6月、11月）にて研究進捗状況の報告を行い、他の教員および大学院生の指導・助言を受ける。
- ・一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。

2年次・・・各専修科目にかんする研究を実施し、専門的知識に基づいた論理的説明能力と研究遂行力の養成

- ・1年次の総括を踏まえ適宜研究計画の見直しを行い、指導教員による個別指導を受け、論文作成を進める。
- ・修士論文検討会（6月及び11月）にて研究の進捗および研究成果を発表し、指導教員以外他の教員や大学院生の指導・助言を受ける。
- ・一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。
- ・修士論文題目を提出し、引き続き、主査・副査の指導を受ける。
- ・修士論文を提出し、修士論文発表会での口頭試問および最終試験を受ける。